



7月2日発表のオーストラリアの政策金利据置きについて

<金融政策について>

オーストラリア準備銀行(RBA:中央銀行)は7月2日の金融政策決定会合において、前回(6月4日)と同様、政策金利であるオフィシャル・キャッシュレートを年率2.75%に据え置くことを決定しました。これは事前の市場予想通りでした。RBAは声明の中で、「現在の金融緩和政策は景気回復を促しつつ、インフレ目標を達成することができるものであり、当面適切である」との判断を示しました。次回の金融政策決定会合は8月6日の予定です。

<今後の見通し>

豪ドルは、RBAが5月7日に追加利下げ(3%→2.75%)を実施して以来、水準調整を続けてきました。米国の量的緩和策(QE)の縮小観測や中国経済の成長ペースの鈍化懸念などを反映し、豪ドルの売りが進むリスク回避の展開となりました。

一方で、これまでの豪ドル安が輸出競争力の改善要因になっている可能性があることや、利下げ効果によって内需に底堅さが見られるようになってきていると思われます。

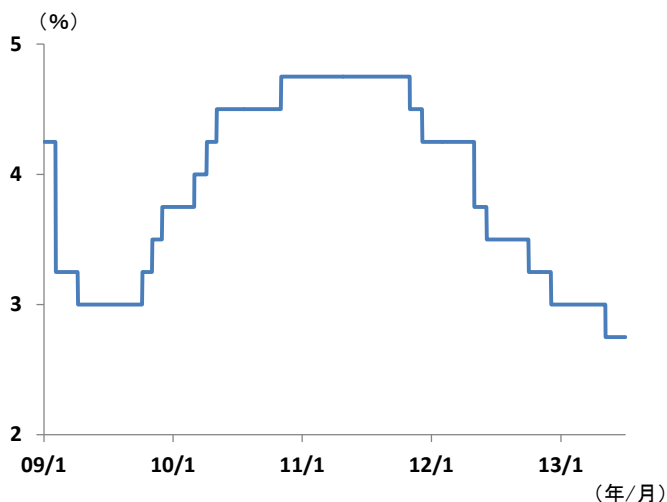
また6月26日には、支持率が低迷していた与党・労働党が党首選を行い、ラッド前首相が現職のギラード首相・党首に勝利し、翌27日に新首相として就任しました。市場では、9月14日に予定されている総選挙に向け、ラッド新首相がどのような景気刺激策を打ち出してくるかに注目しています。

オーストラリア経済を取り巻く海外の経済環境はまだ不透明ですが、オーストラリア経済のファンダメンタルズ(経済の諸条件、経済の基礎的条件)は安定しており、長期的には、高金利通貨である豪ドルは堅調に推移するものと見ています。

金利については、選挙が実施される秋に向けて利下げの可能性があり一進一退のもみあい、株式市場については、利下げの効果によって景気が回復基調となれば徐々に上昇するものと予想します。

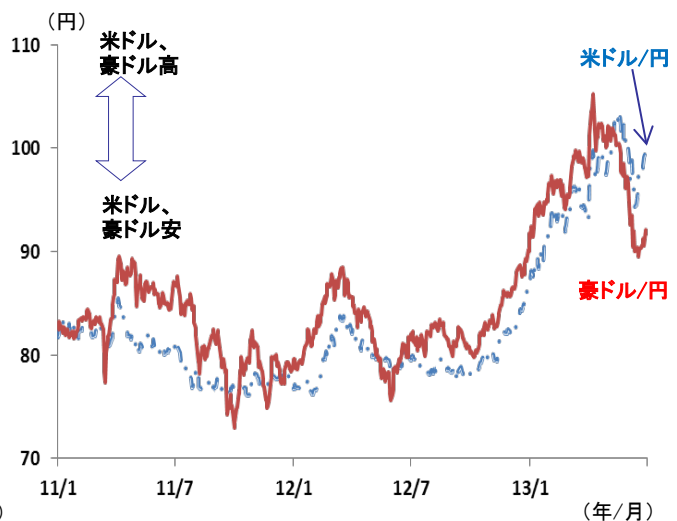
【図表1】 オーストラリア政策金利の推移

(2009年1月1日～2013年7月2日、日次)



【図表2】 米ドル/円と豪ドル/円の推移

(2011年1月3日～2013年7月2日、日次)



出所:ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成